

創作折り紙美術館便り

発行日2009年1月10日

創刊第2号

ごあいさつ

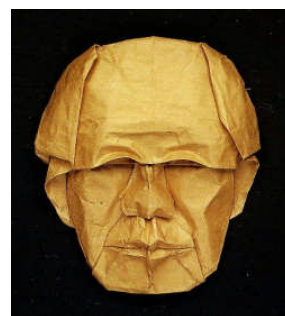
理事長 吉澤 喜代

美術館設立を意図し活動を開始して以来皆様にご協力を頂きました。感謝致しております。前号では、皆様に吉澤章の創作折り紙が、どのようなものであるかを述べました。既に開館されていると思われ「作品が展示されているのは何処ですか」と喜びの声で問合せがありました。建設資金は無に等しく、これから総ては始まると率直に答えています。

事業をおこすこと、寄付をお願いするなど活発に行動したいと思えます。展覧会や講習会は真っ先に考えますが、催しもそう簡単にはできません。これまでの経験から、当方に似合う遣り方をして行

きたいと思えます。講習（折り紙教室）も同様です。吉澤折り紙を長年勉強された方は、教室を開くことを積極的に始めて下さい。教えることによって自らの進歩を見られます。二人でグループになり、みんなで応援もします。

作品の收藏する場所を考えていますが、昨今の経済は世界的に激動し、どのように推移することになるのでしょうか。私どもでは、催しの合間は作品を収められるよう点検、修復、記録（リストアップ）等々、仕事は尽きません。これからが大切な時期です。御理解とお力添えをお願い致します。



国際折り紙研究会故吉澤章会長
自画像

(NPO)創作折り紙吉澤章美術館活動のレポート

創作折り紙移動展覧会（平成19年10月19日～28日 松村幼稚園（東京渋谷区）
会員である山崎寿々先生、三堀園長先生他のご協力を得て、同幼稚園の拝天堂でクリスマスの折り紙を中心に多数の動物などを展示。園児とPTAの方々、ご近所の方にご覧いただきました。園児の小さな手から大切なおこづかいをNPO基金募金箱に入れていただき担当者一同大感激でした。

日光ひな祭り創作折り紙展（平成20年2月16日～18日（日光市郷土センター）
地元の商店街では大切にしているお雛さまを店頭飾る催しで街起こしをしていますが、実行委員の呼びかけをいただいて参加。吉澤先生のおひなさま十五人揃い、会員制作の大きな五人囃子、その他を出展、2月の寒い最中にもかかわらず、地元と観光客の方々にご覧頂きました。

吉澤章創作折り紙展 折り紙教室（平成20年7月19日～8月18日）日光田母沢御用邸記念公園内研修ホール 宇都宮市に在住し地元の文化活動に専念されている五十嵐幸子さんを中心に折り紙展が企画され、一か月間貴重な吉澤作品の数々が展示され栃木県のみならず、遠方の方々まで大勢ご来場いただきました。NPOでは期間中、土日に折り紙教室を開催、300人を越える方々に吉澤折り紙の魅力を楽しんで頂きました。

吉澤章著「母と子のたのしい折り紙」の復刻版発行（平成20年1月12日）昭和54年に家の光協会から出版されて以来、30年ほど絶版になっていた本を著作権者と版元の了解を得てNPOから資料版として復刻しました。クリアファイルにプリントを収めてあります。1部1400円。ご注文は事務局へ。収益はNPOへ寄付します。



松村幼稚園拝天堂で開催された移動展覧会



日光ひな祭りに出展した内裏雛と五人囃子一国際折り紙研究会会員制作

会員を募集しています

NPOは法人の目的に賛同する個人及び団体の方々に会員になっていただき、その力によって運営してゆきます。入会のお申込みは手数料がいらぬ郵便振替用紙がありますので、事務局へ電話またはファックスでご連絡ください。

正会員 会の活動を共にして下さる個人及び団体の方々
入会金5000円 年会費12000円
賛助会員 主に資金等の援助をして下さる個人及び団体の方々
入会金 10000円 年会費24000円

折り紙の移動展、講習会、季節のイベントをします

吉澤折り紙の魅力は一枚の紙で動物、花、人、また抽象形など多彩な表現が可能な美術造形です。先生が国際交流基金などから海外へ派遣されて折り紙の可能性を世界へ広めてからORIGAMIとして多くの国や人々から迎えられました。

吉澤折り紙は、幼稚園児でもやさしく折れるものから、テクニックを必要とする高度な造形まで奥深く、海外の人々に「空中で折る」、「ウエットおりがみ」などと呼ばれる特色も、その一部です。折り方だけでなく、用紙の選び方、出来上がった作品の構

成、展示方法なども大切です。従来の折り紙とは全く違った創作折り紙の魅力を楽しんで頂くために当NPOでは、国際折り紙研究会、その他の教室で長年勉強してきた講師を派遣しています。また、吉澤作品と私たち会員の制作した作品による移動展、さらに「ひな祭り」「七夕祭り」「五月の節句」「クリスマス」など季節にあわせたイベントなどを開いています。

公民館、幼稚園、学校、介護施設、サークルなど企画の際にご相談ください。

吉澤先生の思い出 紙の博物館 前学芸部長 丸尾敏雄

私が吉澤先生に始めてお目にかかったのは、平成10年4月、紙の博物館で創作折り紙の講習会を開催し、講師としておいでになった時でした。当時既に87歳になられていましたが、まだ矍鑠（かくしゃく）とされていました。私は王子製紙を定年退職し、紙の博物館勤務を始めたばかりでしたので、紙の博物館のことはもとより、吉澤先生のことよくわからない状態でした。形通りのご挨拶を申し上げて握手したのですが、年齢の割りに手がすごく温かく、柔らかいのにびっくりしたのが、第一印象です。やはり長い間指先を使ってこられた手だなと感じました。

翌年、学芸部長となり、講習会や企画展を重ねるにつれて吉澤先生とお話させて頂く機会が増えました。平成11年と記憶していますが、講習会が始まる前に先生に、「一つの作品を作り上げるために、いろいろ試行錯誤されるのでしょうか。」とお尋ねしたことがあります。すると先生は怒ったように「そんなことはしなくても作れるのだ。」と答えられました。先生は「神の手が折らせる」という表

現を使用されますが、まさしくこのことかと思つたのです。

あるテレビで生前の服部良一が「自分の作曲は神が教えた曲を楽譜に書くだけだ」といっていたというのを聞いて、天才の発想は同じだと思いました。私流に言えば、幾何の図解問題で補助線1本で簡単に解決できることがあります。この補助線を引くのに凡人は苦勞するのですが、天才はひらめきのようなもので易々と引くことと同じなのでしょう。

紙の博物館では生前、先生の企画展を一度開催させて頂きました。展示の方法を指導されていた姿が思い出されます。高齢になってもあの情熱を持ち続けられるのには頭が下りました。

さすがに、鬼籍に入られる数年前には、本当に純粋な子供のように喜代先生に手を引かれて歩いておられる姿が昨日のことに思い出されます。もちろん苦勞もあったでしょうが、好きな道を一生歩き続けられた、幸せな人生ではなかったかと思っています。

創作折り紙吉澤章美術館設立基金の寄付をお願いします

寄付金は1口1万円ですが、金額にはこだわりません

国際折り紙研究会吉澤章会長のアトリエを整備して美術館として公開する予定ですが、現在作品の収納で手いっぱい状況です。一日も早く恒久的な施設をつくり、作品の安全な収納と常設展示ができるようにしたいと願っています。

これから、国内外に広く訴えて基金の募集をしてゆきますが、世界に類のない貴重な文化遺産ともいべき吉澤作品を後世にしっかり伝えていくために広く皆様のご協力をいただきたいと思います。手数料のいらない振替用紙を用意してありますので、事務局へご連絡ください。

会員名簿（創刊1号掲載分以降 申込順、敬称略、2008年12月20日現在） 笹川健一、高橋邦平、畑雄三、山本艶子、稲見義子、松田弘、竹内廣子、金井美奈子、石塚幸寿、山本よしこ、桑山周子、中根光子、大西史子、佐橋正康、竹村菊郎、藤田明子、伊藤百合子、山崎寿々

NPO法人「創作折り紙吉澤章美術館」事務局 塩川誠 松尾俊夫

〒178-0061 東京都練馬区大泉学園町5-22-9 吉澤方 Tel./Fax. 03-3921-5382